京都工芸繊維大学

創立６０周年記念事業報告書

京都工芸繊維大学基金委員会

2010 年 5 月 31 日

京都工芸繊維大学創立６０周年記念事業報告

平成２１年２月から、京都工芸繊維大学創立６０周年記念事業の募金をお願いしておりましたが、このたび平成２２年５月２１日をもって、本募金活動を終了いたしました。ご寄附いただいた方々に対し厚く御礼申し上げます。

京都工芸繊維大学創立６０周年記念事業については、皆様のご支援により以下のとおり無事終了しましたことをご報告いたします。

○記念行事等

平成２１年５月３０日（土）
記念式典・記念講演会　　於：京都工芸繊維大学 …… 1
創立６０周年記念誌発行

平成２１年６月１９日（金）
創造連携センター設立記念講演会　於：京都府立文化芸術会館 …… 2

平成２１年７月２７日（月）～９月１８日（金）
造形系教員展　　於：美術工芸資料館 …… 3

平成２１年８月～９月
地下鉄烏丸線・東西線の計６駅にサインボード掲示 …… 4

平成２１年９月１１日（金）～１２日（土）
国際学術研究集会　　於：京都工芸繊維大学 …… 5

平成２１年１１月２０日（金）～２９日（日）
大学サイエンスフェスタ in Tokyo　於：国立科学博物館 …… 6
・１１月２０日（金）特別講演
・１１月２６日（木）繊維科学センター東京地区講演会

平成２２年３月２４日（水）
創立６０周年記念ＤＶＤ完成 …… 8

○施設整備事業
駐車場・バイク置場の整備（平成２１年９月３０日竣工） …… 9
学生食堂【KIT HOUSE】の新営（平成２２年３月１５日竣工） ……10
６０周年記念館の新営（平成２２年３月１５日竣工） ……11
同窓会パビリオンの新営（平成２２年３月１９日竣工） ……12

キャンパスマップ ……13

○創立６０周年事業募金状況について ……14

○基金委員会大学創立 60 周年記念事業部会委員名簿 ……17

平成２１年５月３０日（土）
記念式典・記念講演会　　於：京都工芸繊維大学
創立６０周年記念誌発行

平成２１年５月３０日に、本年５月３１日の大学創立６０周年を記念した記念式典等を挙行しました。

当日は、宮内庁正倉院事務所保存課調査室長の尾形充彦氏（Ｓ５２年繊維学部卒）による『正倉院裂の世界』、元村田製作所取締役生産技術統括部長の福井則夫氏（Ｓ３８年工芸学部卒）による『ものづくりの考え方と今後の展望（村田製作所を例として）』をテーマとした記念講演が行われた後、江島学長の挨拶や記念事業により建築を計画している「同窓会パビリオン」設計競技の入賞者表彰等、６０年の節目を記念した式典が行われました。

そのほか、美術工芸資料館の収蔵名品展、附属図書館の貴重資料展、新同窓会パビリオン設計競技応募作品展、大学の研究シーズを紹介する科学技術展、特色ある授業の成果発表会、学生によるロボット展や学生フォーミュラ展など各種の催しが行われ、卒業生や教職員ＯＢ、在学生の保護者等が多数訪れました。

また、記念事業のひとつとして記念誌「京都工芸繊維大学『６０年の歩み』」をこのほど制作しました。記念誌は、本学が１９４９年に新制大学として創立してからこれまでの大学の歩みを、「キャンパス統合まで」、「大学院博士課程設置まで」、「法人化まで」、「法人化以降」の大きな転機を区切りとした４期に分けて紹介するもので、写真やグラフを交え、６０年間の変容がわかるものとしました。

記念式典	江島学長の挨拶
記念講演会	新同窓会パビリオン設計競技 応募作品展

平成２１年６月１９日（金）
創造連携センター設立記念講演会　於：京都府立文化芸術会館

平成２１年６月１９日、京都府立文化芸術会館にて創造連携センター設立記念講演会「感性の京都－祇園おもてなし文化のなぞと脳科学による読み解き－」を開催しました。

江島義道学長による「祇園おもてなし文化・感性・脳科学」と題した基調講演が行われた後、実際に祇園で芸妓・舞妓として活躍した経験を持つ華道家の桐木千寿氏により、「祇園の文化とおもてなし」と題した特別講演が行われました。

基調講演では、江島学長自身の研究テーマである脳科学について、視覚を例にとり、脳による感覚的判断の働きについてのわかりやすい解説がなされました。スクリーンに映し出された図柄を少し動かすことで視え方が変わる不思議を実際に体感した聴衆からは、感嘆の声が漏れました。

また、特別講演では、一般の人には敷居が高いと思われがちな祇園の世界について、桐木氏自身の体験を交えた講演がなされました。巧みな話術に会場は時折笑いに包まれ、祇園文化「おもてなし」の心の一端を垣間見る内容でした。

最後に、芸妓・舞妓による舞も披露され、講演会は盛況のうちに幕を閉じました。

この講演会は、平成２１年４月に、地域共同研究センターとインキュベーションセンターを発展的に統合させ、大学の産学官連携に係る総合的窓口として「創造連携センター」を設立したことを記念するとともに、大学創立６０周年記念事業の一環として行われたものです。

福田民郎センター長挨拶（会場風景）	脳の働きの不思議を語る江島学長
桐木千寿氏による講演	祇園の芸妓・舞妓による舞の披露

平成２１年７月２７日（月）～９月１８日（金）
造形系教員展　　於：美術工芸資料館

京都工芸繊維大学はバイオ系、化学系、情報系、電気・電子系、機械系、建築・デザイン系、およびこれらにまたがる各分野を教育・研究している工学系の大学です。

今回の「造形系教員展」では、現在京都工芸繊維大学で教育・研究に携わっている教員、中でも建築・デザイン系（造形系）の教員が作成したデザイン、建築の作品、あるいは教員が手がけたさまざまなプロジェクトを展示しました。現役の教員による現在進行形の作品が並びました。

プロフェッショナル　建築･デザインの現在
-京都工芸繊維大学造形系教員展-
ポスター

平成２１年８月～９月
地下鉄烏丸線・東西線の計６駅にサインボード掲示

大学創立６０周年を記念して、平成２１年８月と９月に、京都市営地下鉄（烏丸線３駅、東西線２駅）に新たにサインボード広告を掲示しました。これにより、平成２０年１２月に掲示した松ヶ崎駅と併せて計６駅に本学を PR するサインボードが掲示されたことになります。

烏丸線に掲示しているサインボードのデザインは、造形工学部門中野仁人准教授によるもので、現代の浮世絵風景画といったイメージで、掲示駅周辺の名所を取り入れつつ、大空に悠々と飛翔する三羽の鳥（本学の 3 つの教育研究組織（学域）を象徴）がキャンパスのある松ヶ崎に近づく様子が描かれています。

また、東西線に掲示しているサインボードは、造形工学部門市川靖史助教の作品で、烏丸線とは趣きを変え、本学のキャンパスの良さを感じてもらえるよう、キャンパスの一風景を切り取り、落ち着いた雰囲気を醸し出す写真となっています。

地下鉄に掲示されているサインボード

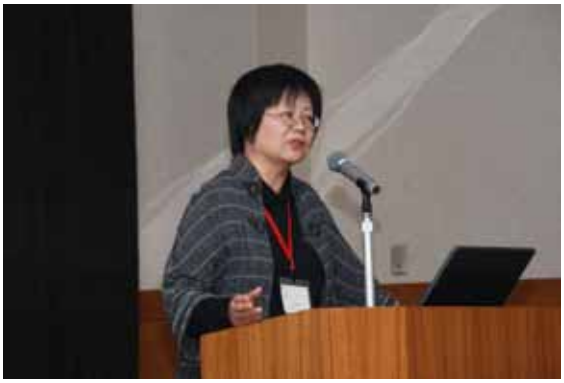
平成２１年９月１１日（金）～１２日（土）
国際学術研究集会　　於：京都工芸繊維大学

第１０回アジア繊維会議ポストシンポジウムを開催

平成２１年９月１１日、１２日の両日、大学創立６０周年記念事業の一環として、第１０回アジア繊維会議のポストシンポジウムを開催しました。

アジア繊維会議は２年に１度、アジアの国が持ち回りで開催する繊維にかかわる国際会議で、今年度の第１０回大会は９月７日～９日に信州大学で開催されましたが、本学繊維科学センターが同大会の特別セッションの１テーマ「Human Oriented Fiber Technology」を主催したため、ポストシンポジウムを本学で行うこととなりました。

ポストシンポジウムでは、香港（中国）、ベトナム、インド、イギリス、スペイン、スウェーデン、アメリカに日本を加えた計８カ国から１１名の招待講演者を招き、繊維科学センターが提唱している次世代を見据えた繊維工学研究「Neo-Fiber Technology」に関わる講演、およびポスター発表が行われました。講演内容は、バイオベースなどの新たなマテリアル開発、テキスタイルプロセッシング、テキスタイルデザイン、ヒューマンリレイティドの繊維工学など、広く繊維分野について発表されるとともに、「環境」に関連したテーマも多く取り上げられ、１００人近い参加者が集まり活発な質疑応答もなされました。

基調講演	ポスター発表の様子
	

平成２１年１１月２０日（金）～２９日（日）
大学サイエンスフェスタ　　於：国立科学博物館
・１１月２０日（金）特別講演
・１１月２６日（木）繊維科学センター東京地区講演会

大学創立６０周年記念事業の一環として、平成２１年１１月２０日から２９日まで、東京・上野にある国立科学博物館で開催された「大学サイエンスフェスタ」に出展しました。同イベントは、大学の多様な先端研究の成果を来館者が楽しみながら体験し、理解できるようにと、国立科学博物館と参加大学が主催するものです。

メイン会場となった第１会場は、『「エコの未来をデザインが拓く」－科学と芸術の融合・エコをデザイン！－』をテーマとして、展示会場全体を本学工芸科学部造形工学課程３回生の学生たちがデザインから制作・設営までを行いました。展示ブースは、間伐材を用いたウッドデッキに、フラクタル構造を持つ日よけ「シェルピンスキーの森」を配置するなど環境にやさしいイメージを全面に出し、さらに、本学と「連携・協力に関する包括協定」を締結している京丹後市の名産品である「丹後ちりめん」を高さ７ｍから吊り下げるなど大胆なデコレーションを施しました。

ブース内では、バイオマスから作るプラスチック（ポリ乳酸）に関する研究内容を、２０世紀の石油時代からの変遷とともに紹介し、イラストを交えた説明パネルや実際に使われているポリ乳酸の製品などに加え、５０年後、２００年後、３０００年後の未来社会（京都）をイメージして作成した大きなジオラマも展示され、多くの来館者の目を惹いていました。

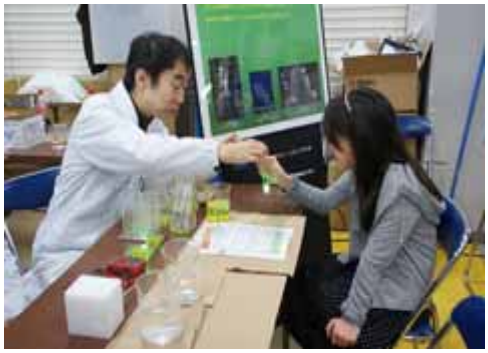
第２会場は、おもしろ科学教室と題し、水の表面張力を利用した実験コーナーや、本学で育てたカイコが作ったまゆ玉を使ってストラップを作る工作コーナー、人とシステムとの相互関係を包括的に捉える新たな設計概念であるインタラクティブデザインに関する授業の成果紹介など、第１会場の視覚に訴える展示とは違い、体験型ブースとして来館者が気軽に参加できる実験や工作を行いました。

化学反応によって目の前で光る液体や、ハサミと糊で簡単に作れる分光器、くまのロボットとのハンドベル演奏など、科学の面白さを直接体験することができ、終日多くの参加者でにぎわいました。また、京丹後市の風土・物産を紹介するコーナーもあり、東京から遠く離れた京丹後市に、多くの来場者が関心を寄せていました。

【第１会場】

第１会場でひときわ目を惹く、 本学の展示ブース	バイオマスから作るプラスチック （ポリ乳酸）に関する研究内容を 熱心に見る来場者

【第２会場】

工作や実験に参加する 来館者でにぎわう会場	化学反応による変化を体験する参加者
	
水の表面張力を利用した実験コーナー	インタラクティブデザイン授業の 成果紹介 （くまのロボットとのハンドベル演奏）

平成２２年３月２４日（水）
創立６０周年記念ＤＶＤ完成

記念ＤＶＤは、大学創立以降６０年の学校史の紹介に加え、大学創立６０周年を迎えた平成２１年度に行われた、記念講演会等の記念行事や入学宣誓式等の主要な行事を映像で紹介するとともに、研究室や教育研究センター等において現在行っている教育研究活動を教員や学生のインタビューを通じて紹介するなど、「今」に重点を置いた構成としています。さらに、ＤＶＤの最後には、学生の「１０年後の自分へのメッセージ」も収録しており、「未来」へも思いを馳せる内容としています。

記念誌「６０年の歩み」（右）と

「大学創立６０周年記念ＤＶＤ」（左）

駐車場・バイク置場の整備（平成２１年９月３０日竣工）

松ヶ崎キャンパス内の交通環境を改善するため、グラウンドの西側を使い、車約１００台とバイク約２００台が収容可能な駐車場と、バイク置場を整備しました。

新駐車場の整備に伴い、東部構内への自動車およびバイクの入構を原則として禁止することとし、併せて自転車の駐輪について構内全域における駐輪禁止区域を定めるなど、構内交通安全対策の見直しを行いました。

今後は、駐車の状況等を踏まえて、適切な運用を行っていくこととしています。

整備された駐車場	バイク置場
構内の状況〈駐車場整備前〉	構内の状況〈駐車場整備後〉

学生食堂【KIT HOUSE】の新営（平成２２年３月１５日竣工）

大学創立６０周年記念事業によるキャンパス整備の一環として、学生食堂を建替えた新たな施設「ＫＩＴ　ＨＯＵＳＥ」を新設し、３月３０日に竣工記念式典を、４月５日にオープニングレセプションを開催しました。

「ＫＩＴ　ＨＯＵＳＥ」は、従来の学生食堂が老朽化してきたことや、学生の増加に伴い食事スペースが手狭となったことなどから、学生・教職員の厚生及び、生活上のサービス向上に寄与する施設として整備したもので、本学岸和郎名誉教授により設計されました。キャンパスの景観形成とアメニティの向上を図り、食事スペースを従来よりも増加させ、２階にはミニコープと購買部・ブックセンターが移転して入りました。

オープン後は多くの利用者で賑わい、「以前よりもさらに快適に利用できるようになった」などの声が聞かれました。

テープカット（中央：江島学長）	ＫＩＴ　ＨＯＵＳＥ　外観
１階食堂の様子	２階ミニコープの様子

６０周年記念館の新営（平成２２年３月１５日竣工）

大学創立６０周年を記念した研究交流施設「６０周年記念館」を新設し、３月３０日に竣工記念式典を開催しました。

「６０周年記念館」の建設は、大学創立６０周年記念事業の目玉の一つであり、本学建築造形学部門木村博昭教授により設計されました。伝統と新しさの融合をイメージしたデザインの建物であり、１階にはギャラリーとして使用することができるスペースと１９０人規模の記念ホール、２階には大小２種類のセミナー室を設けています。学外共同研究者の発表会や学会など様々な規模のイベントの開催が可能です。

同記念館は本学のシンボルとして位置づけられ、今後、研究交流や高校見学会など社会的活動の場として様々な活用が期待されています。

テープカット（中央：江島学長）	「６０周年記念館」外観
１階記念ホール	２階セミナー室

同窓会パビリオンの新営（平成２２年３月１９日竣工）

大学創立６０周年記念事業によるキャンパス整備の一環として、同窓会の拠点となる施設「同窓会パビリオン」を松ヶ崎キャンパス北部の敷地に新設し、３月３０日に竣工記念式典を開催しました。

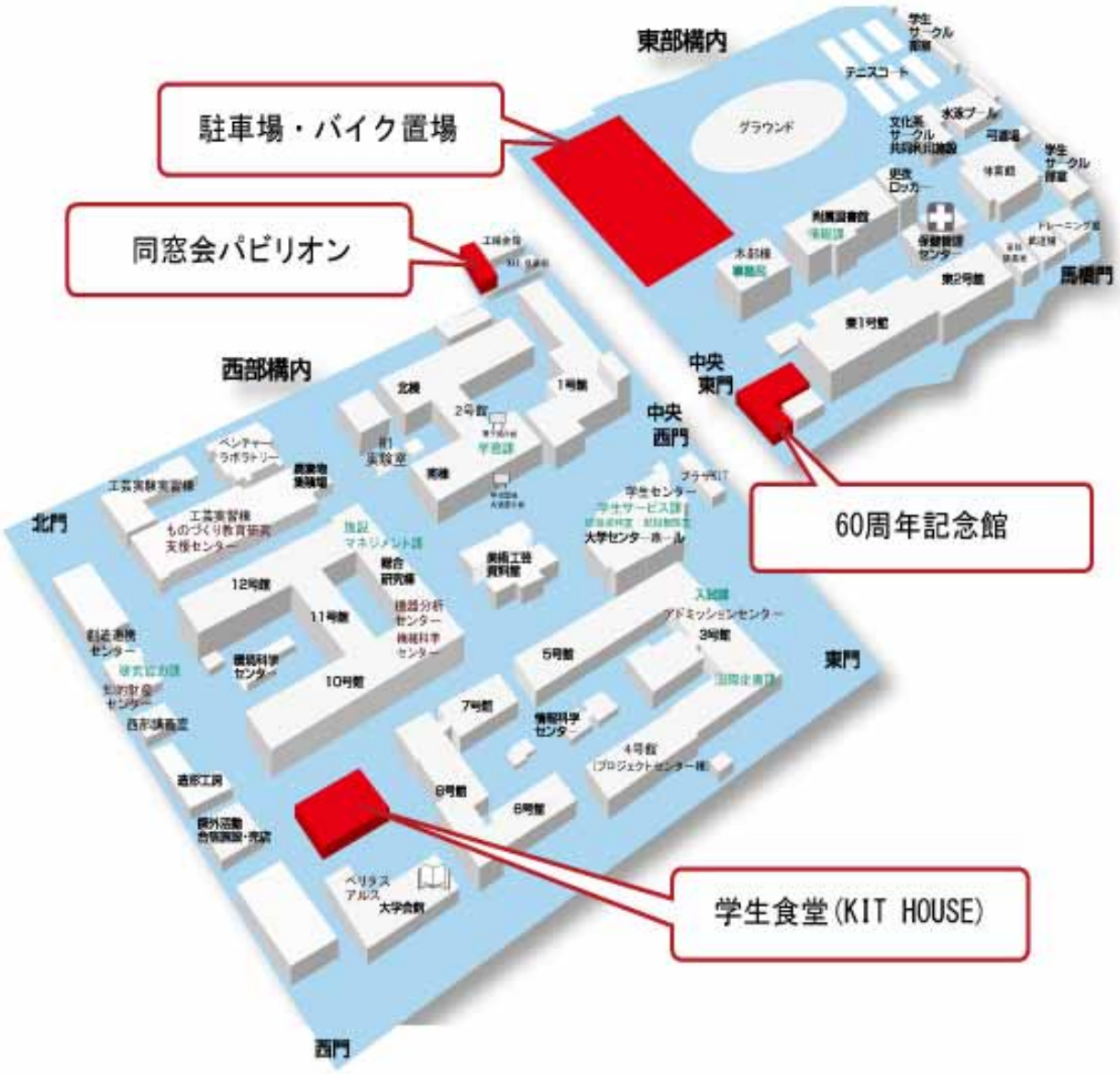
「同窓会パビリオン」は、同敷地内に建つ「工繊会館」、「ＫＩＴ倶楽部」と合わせ、「松ヶ崎ＫＩＴ会館」として学内外の交流と親睦を図ることを目的としています。

平成２０年度末に実施した設計競技にて、優秀賞に選定された、本学建築造形学部門の角田暁治准教授による設計であり、過去から未来へと積み重ねられる本学の歴史や理念を見据え、現代における存在感を結晶化した形をイメージしたデザインとなっています。

同パビリオンが同窓会の拠点として有意義に使用されることにより、卒業生との交流に刺激が与えられるなど、大学と社会に親密な交流が生まれることが期待されています。

テープカット（中央：江島学長）	「同窓会パビリオン」外観

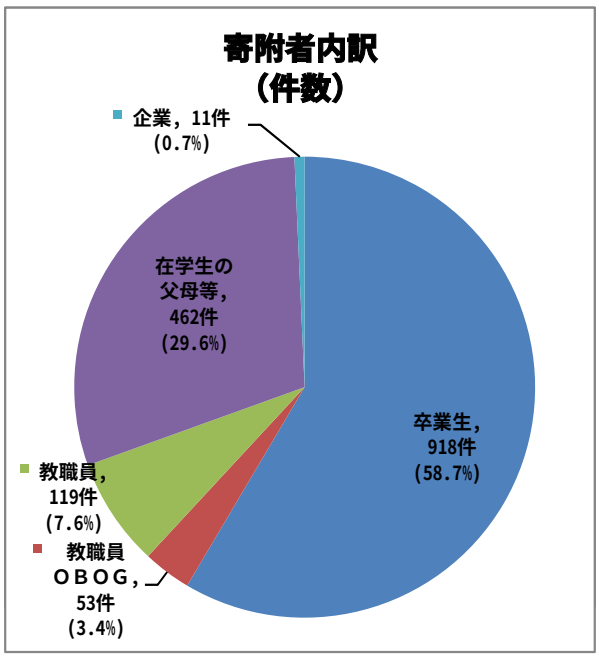
キャンパスマップ

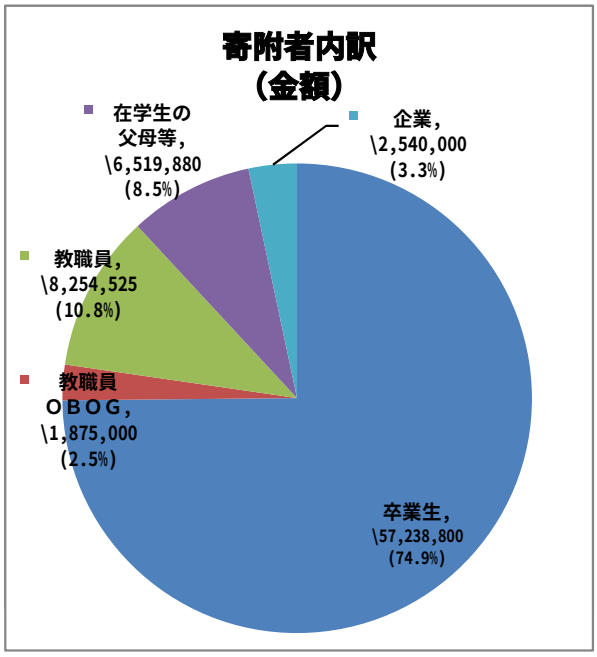

駐車場・バイク置場
同窓会パビリオン
60周年記念館
学生食堂(KIT HOUSE)
東部構内
西部構内
北門
東門
西門
中央西門
中央東門
グラウンド
テニスコート
水泳プール
体育館
大学会館
大学センターホール

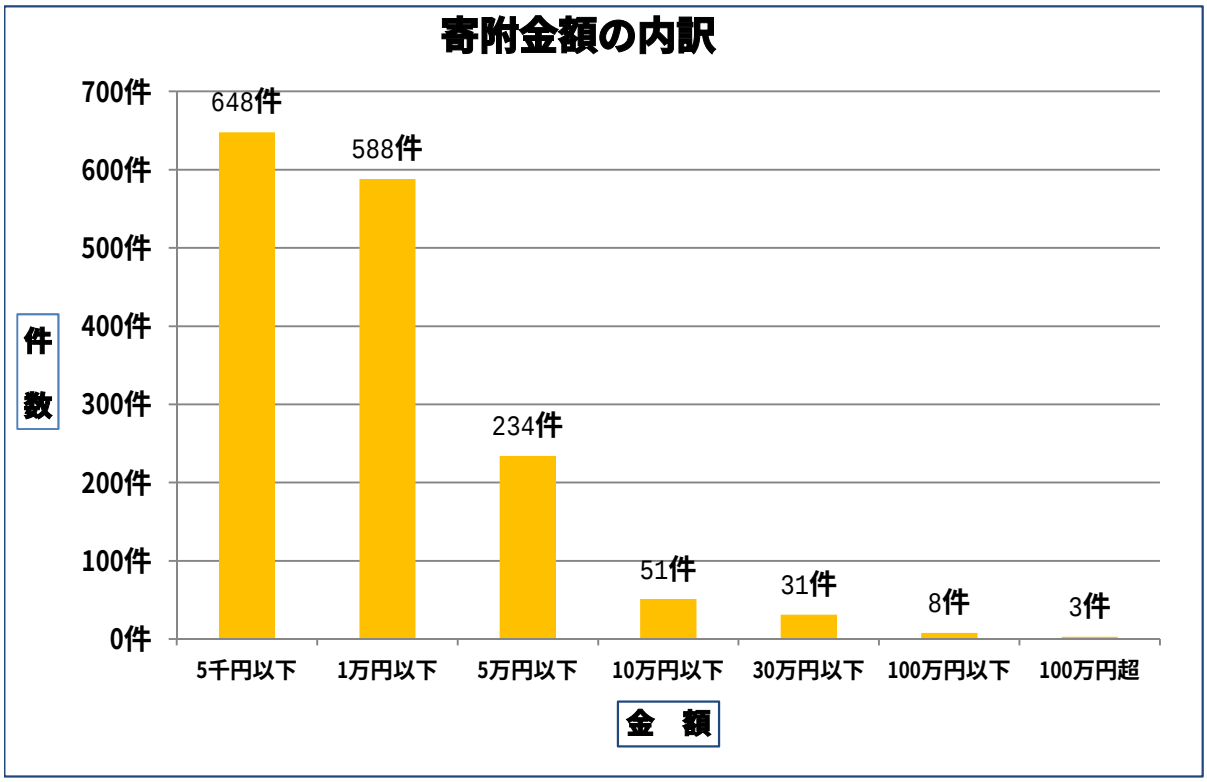
京都工芸繊維大学創立６０周年記念事業募金状況について

◎募金状況　（平成21年2月～平成22年5月）

区　分	寄附者（件）	寄附金額（円）
卒業生	918	57,238,800
教職員ＯＢＯＧ	53	1,875,000
教職員	119	8,254,525
在学生の父母等	462	6,519,880
企業	11	2,540,000
計	1,563	76,428,205







◎寄贈品

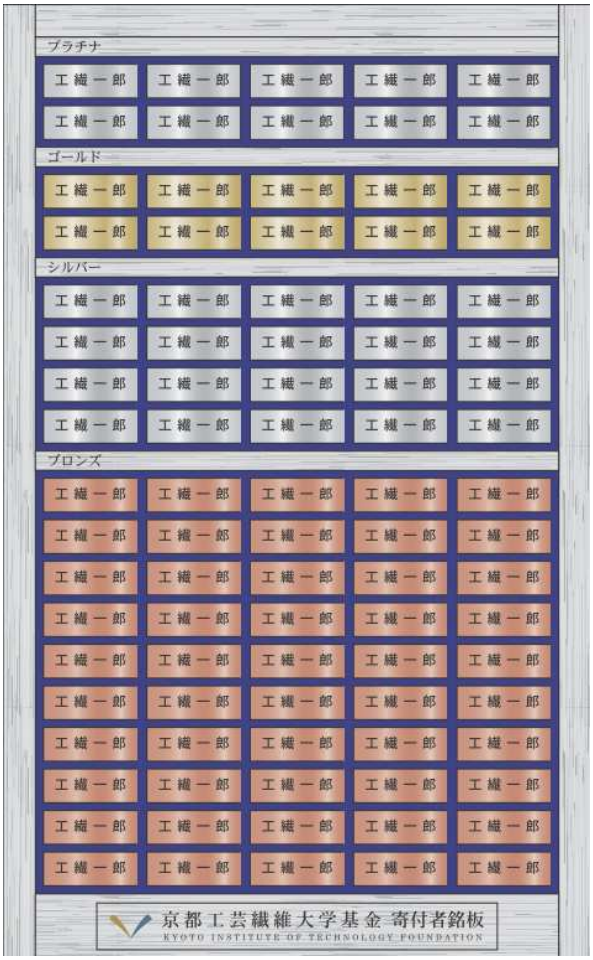
版画(OUT OF TIME)　　１点
寄贈者：木村光佑氏(本学第９代学長)

陶器(無名異 練上花紋皿) １点
寄贈者：五代伊藤赤水氏(重要無形文化財保持者)

◎ご寄附いただいた方のご厚意に対する感謝

〇記念プレートの贈呈及び銘板の掲示
　一定額以上ご寄附いただいた方に対しては、本学の発展のため、多大な貢献をいただいたことへの感謝の意を表し、記念プレートを贈呈するとともに、ご芳名を刻印した銘板を６０周年記念館内に掲示させていただきます。（掲示を希望されない方を除きます。）
　・プラチナ（累計1,000万円以上のご寄附者へ）
　・ゴールド（累計300万円以上のご寄附者へ）
　・シルバー（累計100万円以上のご寄附者へ）
　・ブロンズ（累計30万円以上のご寄附者へ）

銘板



記念プレート

京都工芸繊維大学基金委員会　大学創立 60 周年記念事業部会委員名簿

（平成２０年１２月１８日～平成２２年３月３０日）

部会長	学長	江島　義道
副部会長	理事・副学長	古山　正雄
副部会長	理事・副学長	功刀　　滋
副部会長	京都工大会理事長	古川　敏一
	（京都工芸繊維大学同窓会顧問）	
副部会長	衣笠同窓会会長	松原　藤好
	（京都工芸繊維大学同窓会会長代行）	
	京都工大会理事長代行	本城　博一
	（京都工芸繊維大学同窓会副会長）	
	衣笠同窓会副会長	三好　　明
	（京都工芸繊維大学同窓会副会長）	
	理事・副学長	竹永　睦生
	理事・事務局長	林　　一義
	工芸科学研究科長	柴山　　潔
	工芸科学研究科副研究科長	森迫　清貴
	教育研究推進支援機構長	村上　　章
	工芸科学研究科教授	伊倉　宏司
	工芸科学研究科教授	松野　謙一
	工芸科学研究科教授	大谷　芳夫
	工芸科学研究科教授	米谷　文男
	工芸科学研究科教授	濱田　泰以
	工芸科学研究科教授	高倉　章雄
	工芸科学研究科教授	中森　伸行
	工芸科学研究科教授	石原　　孝
	工芸科学研究科教授	山本建太郎
	工芸科学研究科教授	遠藤　泰久
	工芸科学研究科教授	堤　　直人
	工芸科学研究科教授	佐藤　哲也
	工芸科学研究科教授	森　　肇

京都工芸繊維大学基金委員会事務局
〒606-8585
京都市左京区松ヶ崎橋上町1
京都工芸繊維大学 財務課総務係
TEL　075-724-7045
FAX　075-724-7040
Mail　ab7045c@jim.kit.ac.jp